

山 梨 県
商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成20年4月～6月実績〕
〔平成20年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

| | |
|---------------------|----|
| I 調査要領 | 1 |
| II 景 況 | |
| 1. 産業全体の景況概観 | 2 |
| 2. 製造業の動向 | |
| (1) 景況概観 | 3 |
| (2) 主な項目でみる業況 | 3 |
| 3. 建設業の動向 | |
| (1) 景況概観 | 6 |
| (2) 主な項目でみる業況 | 6 |
| 4. 小売業の動向 | |
| (1) 景況概観 | 9 |
| (2) 主な項目でみる業況 | 9 |
| 5. サービス業の動向 | |
| (1) 景況概観 | 12 |
| (2) 主な項目でみる業況 | 12 |

【I】 調査要領

1. 調査対象

- (1) 対象地区 11商工会
- (2) 対象企業数 165企業
- (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

- 第1四半期 平成20年4月～6月期
- 調査時点 平成20年6月1日

3. 調査方法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

| 商工会名 | 製造業 | 建設業 | 小売業 | サービス業 | 計 |
|--------|-----|-----|-----|-------|-----|
| 都留市 | 3 | 3 | 5 | 4 | 15 |
| 南アルプス市 | 3 | 2 | 5 | 5 | 15 |
| 北杜市 | 4 | 2 | 5 | 4 | 15 |
| 甲斐市 | 3 | 3 | 4 | 5 | 15 |
| 笛吹市 | 3 | 2 | 4 | 6 | 15 |
| 上野原市 | 3 | 3 | 4 | 5 | 15 |
| 甲州市 | 3 | 2 | 6 | 4 | 15 |
| 鵜沢町 | 4 | 2 | 6 | 3 | 15 |
| 身延町 | 4 | 2 | 6 | 3 | 15 |
| 中央市 | 4 | 2 | 6 | 3 | 15 |
| 河口湖 | 4 | 2 | 6 | 3 | 15 |
| 計 | 38 | 25 | 57 | 45 | 165 |

5. その他

本報告書のDI値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の景況概観

本県の「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」4業種の過去2年間の売上額(完成工事額)の推移は下図のとおりである。ここでいう売上額D Iとは、今期の売上額状況を前年同期と比較したものである。まず、製造業から見ていくと、前期の売上額D Iはマイナス30.5であったが、今期はやや改善しマイナス23.7であった。

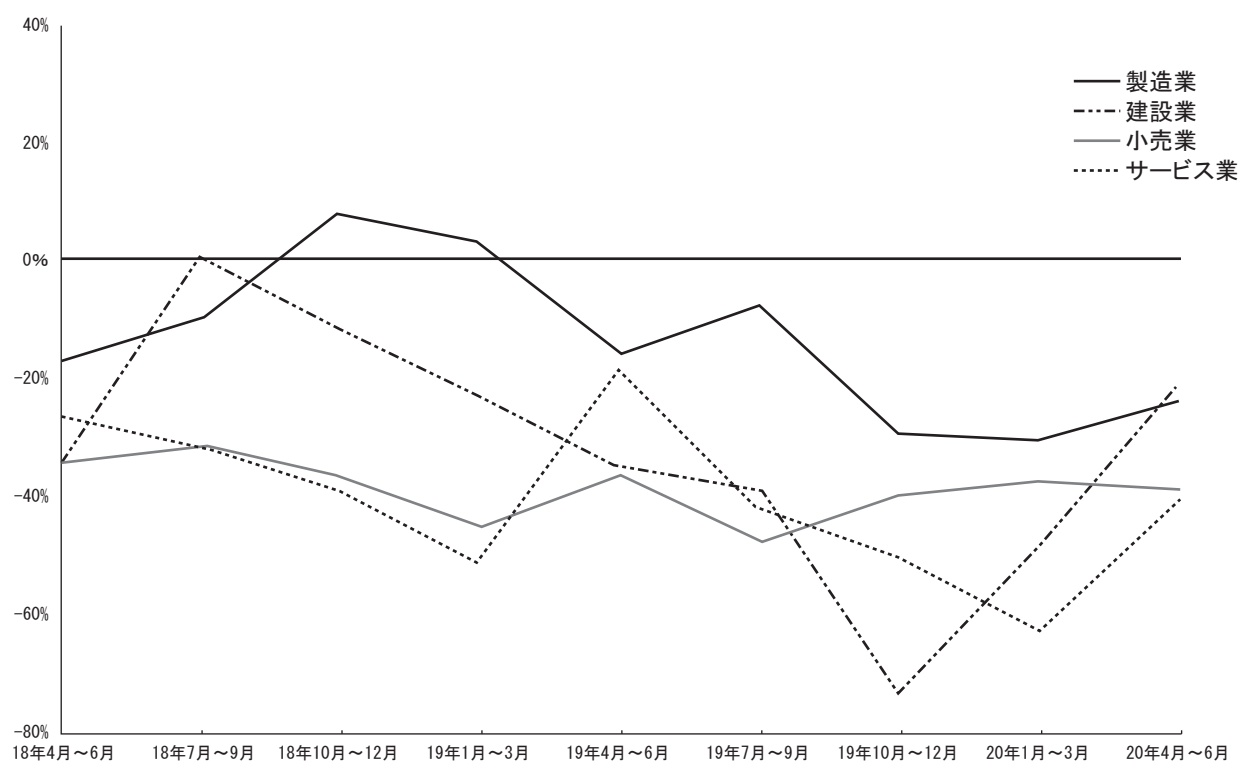
建設業の完成工事額D Iは、図が示すとおり2期続けて右肩一直線の上昇である。4月の県内の公共工事保証請負額(東日本建設業保証株式会社)が、前年同期比2.3%減少となっている状況の中で、前期マイナス48.0からマイナス20.9となった。相変わらずマイナス基調であるが、製造業を抑えて最もよいD Iであった。

小売業については、前期から横ばいでD I マイナス38.6である。最後にサービス業であるが、この1年間で最も悪かった前期マイナス62.3から、20ポイント以上の改善をみせマイナス39.9であった。今期においては、小売業とサービス業の売上額D I がほぼ並んだ状況である。

次に、4業種の来期の見通し売上額D Iについては、製造業は今期と全く変わらず、建設業は再び大きく落ち込む見通しでマイナス62.6である。小売業も、マイナス50.9と前期より12.3ポイント悪化の見通しである。サービス業についても、13.5ポイント悪化のマイナス53.4である。

山梨県 全産業 DI

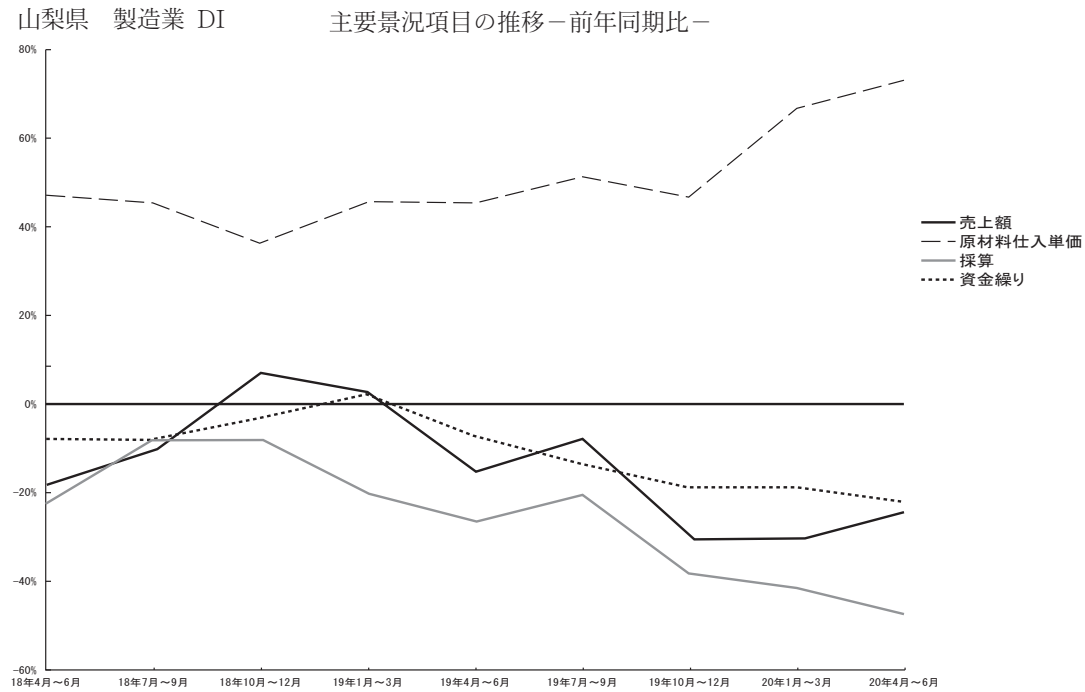
売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-



2. 製造業の動向

1. 景況概観

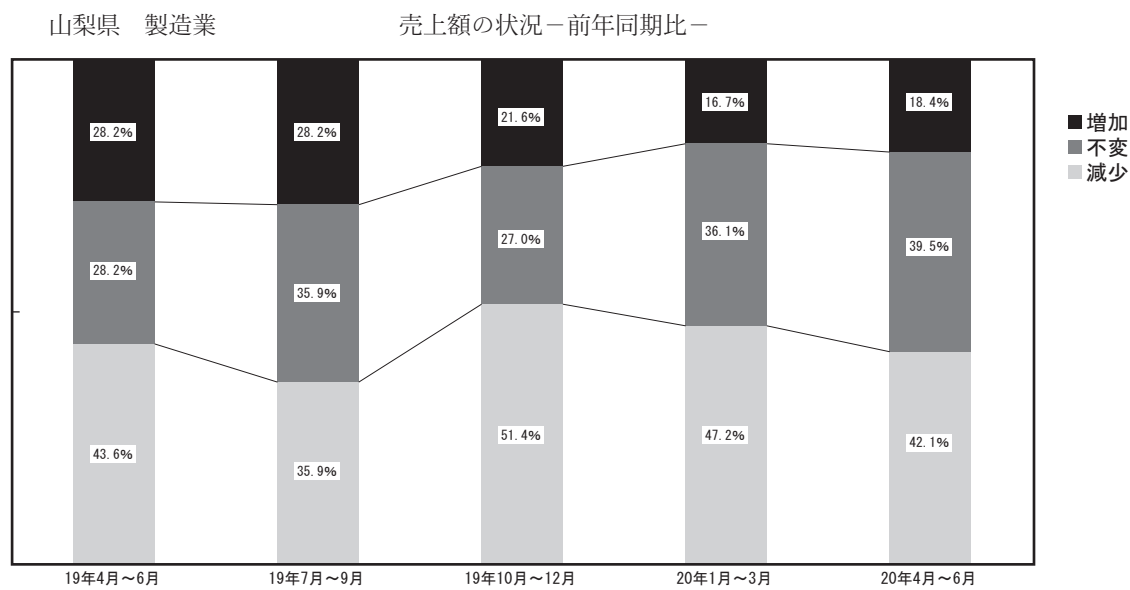
下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額については、すでに述べたとおりである。原材料仕入単価DIは、前期67.6から更に上昇し73.5になった。来期の見通しは、前期と同じ67.6へと戻る。採算DIは悪化の一途で、前期マイナス41.6から5.8ポイント下がりマイナス47.4である。来期の見通しは、12.3ポイント改善しマイナス35.1である。資金繰りDIについては、前期より少々悪化のマイナス21.6である。来期の見通しは、前期と同じマイナス18.9に改善する。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額DIマイナス23.7となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合が前期より1.7ポイント上昇し18.4%、「不変」は36.1%から39.5%に増え、「減少」は47.2%から約5ポイント減って42.1%となった。よって、6.8ポイント上昇のDIマイナス23.7という結果になった。

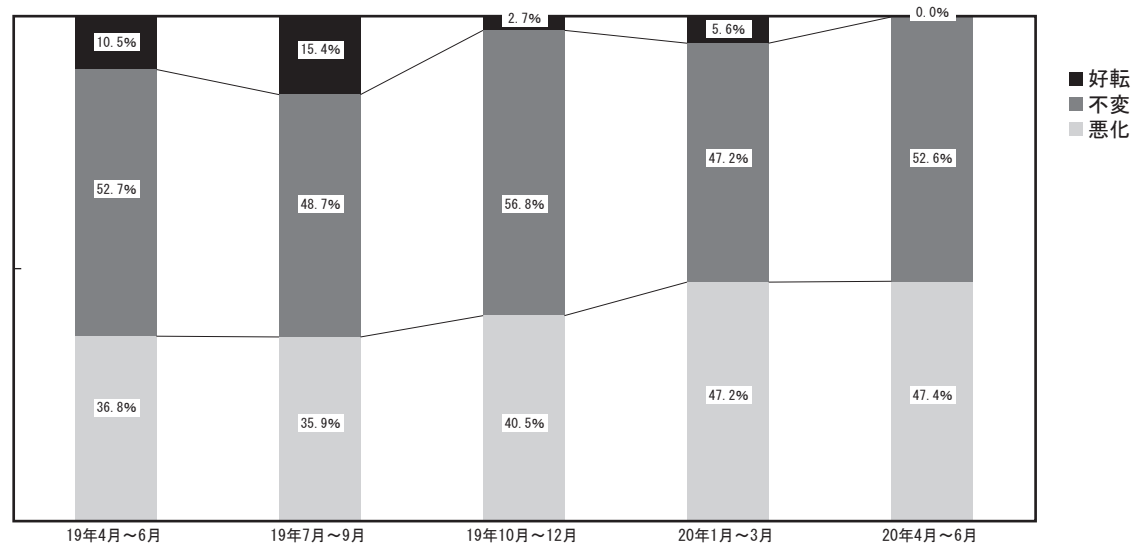


(2) 採算

今期の採算D I マイナス47.4についても、その詳細を見てみよう。「好転」と答えた企業は皆無の0%、「不変」が前期47.2%から52.6%と過半数へ、「悪化」は横ばいの47.4%となった。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－

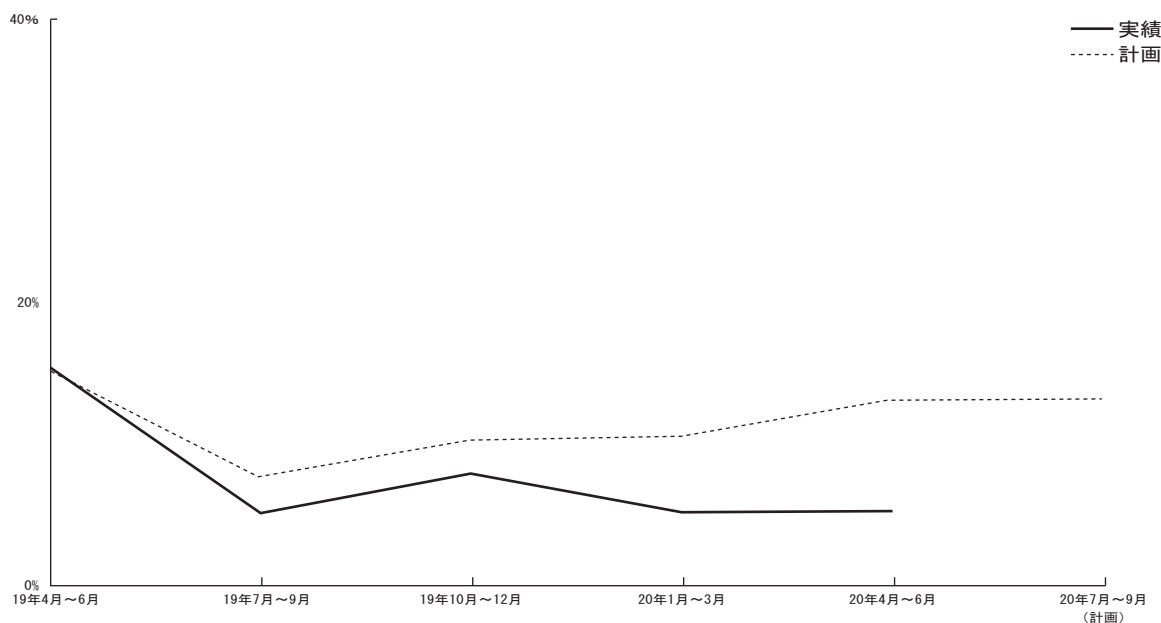


(3) 設備投資

下図は、過去1年間の設備投資の状況を示したものである。設備投資した企業の割合は、前期と同じく今期も2社の5.3%であった。その内訳は、「付帯施設」、「OA機器」がそれぞれ1件であった。今期の特徴は、設備投資企業が複数内容の投資をしなかったことである。来期の計画は、5社の13.2%で、「工場建物」と「生産設備」が2件ずつ、「土地」と「OA機器」が各1件である。

山梨県 製造業

設備投資の状況

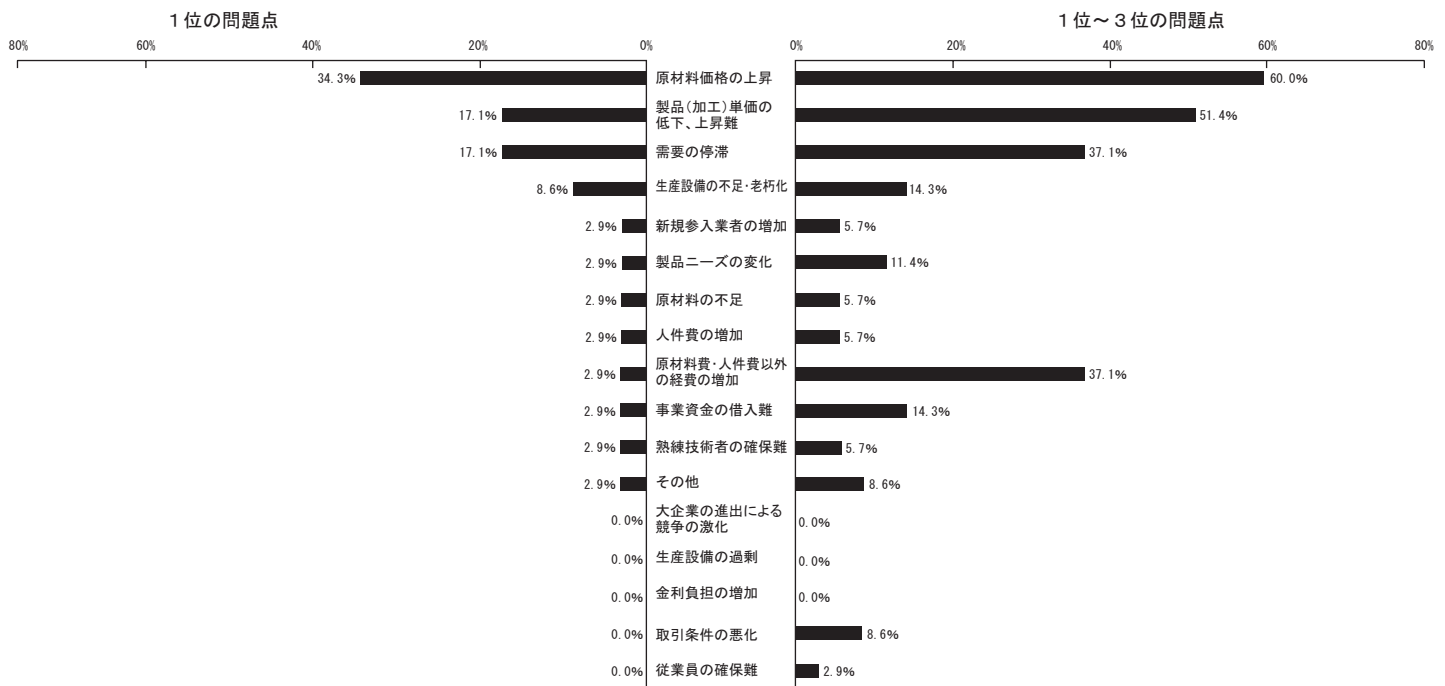


(4) 経営上の問題点

製造業における経営上の問題点は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「原材料の価格の上昇」が12社の34.3%で圧倒的に多い。続いて「製品(加工)単価の低下、上昇難」と「需要の停滞」でそれぞれ6社の17.1%という結果である。その他の答えは、3社以下が答えるに止まっている。

次に「一～三位」を見ると、「一位」に挙げた答えと同じく「原材料価格の上昇」で21社の60.0%で最も多かった。次に多かったのは、「製品(加工)単価の低下、上昇難」で18社の51.4%と続く。この二つの答えを過半数の企業が挙げている。そのほか目につく答えは、それぞれ13社が答えている「原材料費・人件費以外の経費の増加」と「需要の停滞」で37.1%である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

| 業種 | 企業数 | 構成比(%) |
|---------------|-----|--------|
| 食料品製造業 | 6 | 15.8 |
| 衣服・その他繊維製品製造業 | 1 | 2.6 |
| 印刷・同関連業 | 2 | 5.5 |
| 化学工業 | 1 | 2.6 |
| プラスチック製品製造業 | 4 | 10.5 |
| 窯業・土石製品製造業 | 1 | 2.6 |
| 金属製品製造業 | 1 | 2.6 |
| 一般機械器具製造業 | 7 | 18.4 |
| 電気機械器具製造業 | 3 | 7.9 |
| 輸送用機械器具製造業 | 4 | 10.5 |
| 精密機械器具製造業 | 1 | 2.6 |
| その他製造業 | 7 | 18.4 |
| 合計 | 38 | 100.0 |

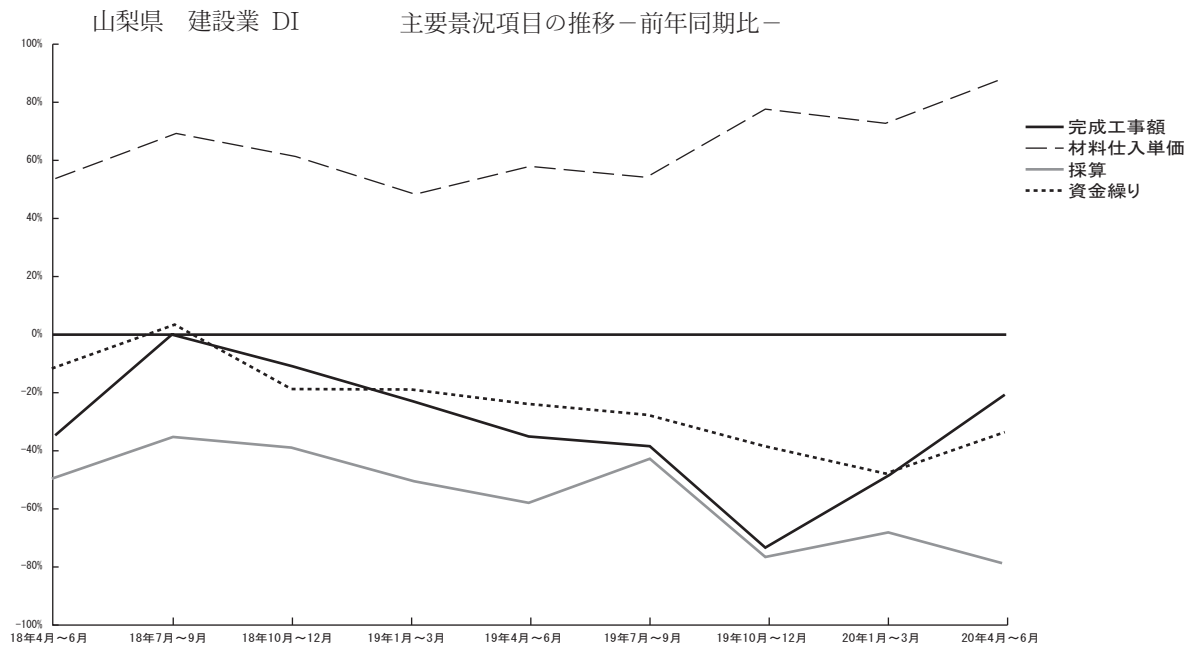
従業員規模別

| 従業員数 | 雇用形態 | | 臨時等含む | |
|-----------|------|--------|-------|--------|
| | 常 | 雇 | い | |
| | 企業数 | 構成比(%) | 企業数 | 構成比(%) |
| 2人以下 | 18 | 47.4 | 12 | 31.6 |
| 3人～5人以下 | 8 | 21.0 | 10 | 26.3 |
| 6人～10人以下 | 3 | 7.9 | 7 | 18.4 |
| 11人～20人以下 | 4 | 10.5 | 3 | 7.9 |
| 21人～50人以下 | 5 | 13.2 | 6 | 15.8 |
| 合計 | 38 | 100.0 | 38 | 100.0 |

3. 建設業の動向

1. 景況概観

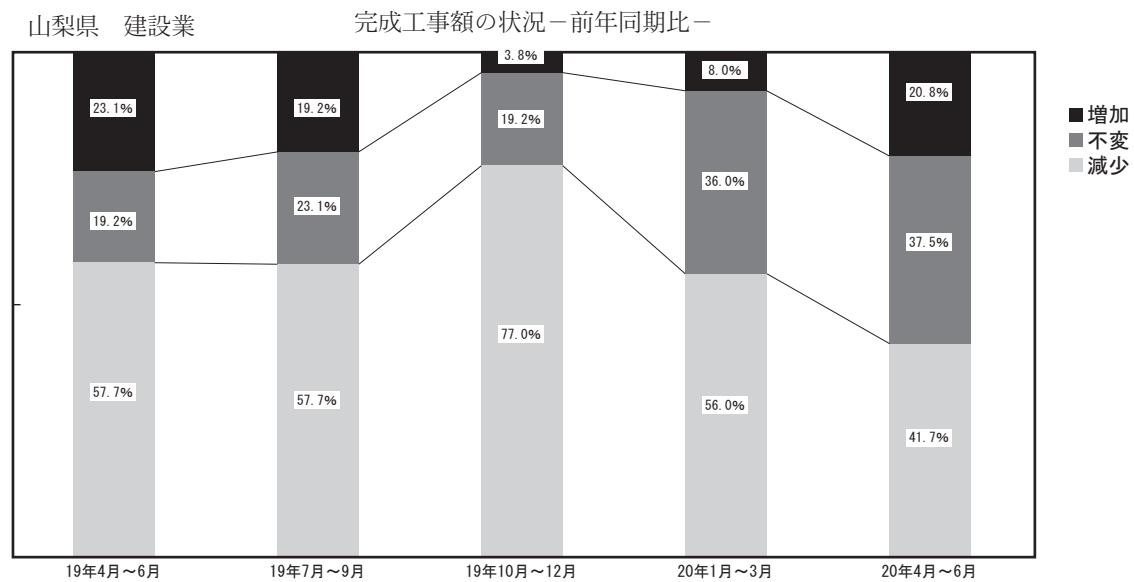
「完成工事額」については、産業全体の景況概観で述べたので「材料仕入単価」「採算」「資金繰り」を見ていきたい。材料仕入単価DIは、前期72.0より15.5ポイント上昇し、87.5とこの1年間で最も高いDIとなった。回答者のうち「低下」と答えた企業はおらず、経営を大きく圧迫している様子が窺い知れる。来期の見通しは、いくらか改善し75.1である。採算DIは、この1年間で最も悪化し前期マイナス68.0からマイナス79.2に、11.2ポイント悪化した。来期の見通しは、今期と変わらないDIである。資金繰りDIは、前期マイナス48.0から14.7ポイント改善しマイナス33.3となった。来期の見通しについては、20.9ポイント悪化しマイナス54.2と下がる。



2. 主な項目で見る業況

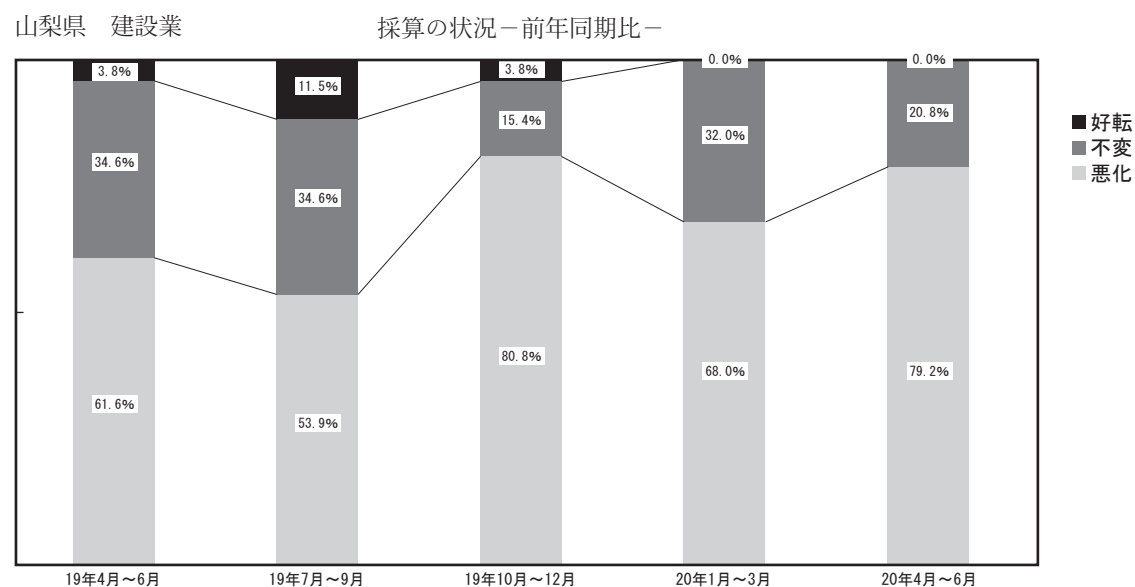
(1) 完成工事額

過去1年の「完成工事額」の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額DI マイナス20.9の内訳をみると、「増加」が前期2社から今期5社に増え20.8%、「不変」は前期とほとんど変わらず37.5%、「減少」は56.0%から41.7ポイント少なくなり41.7%であった。今期は、完成工事額ベースでは回復していると言えるが、新規契約工事受注額でみるとマイナス45.8であり、前記した来期の完成工事額の見通しの悪化に反映されているものと思われる。



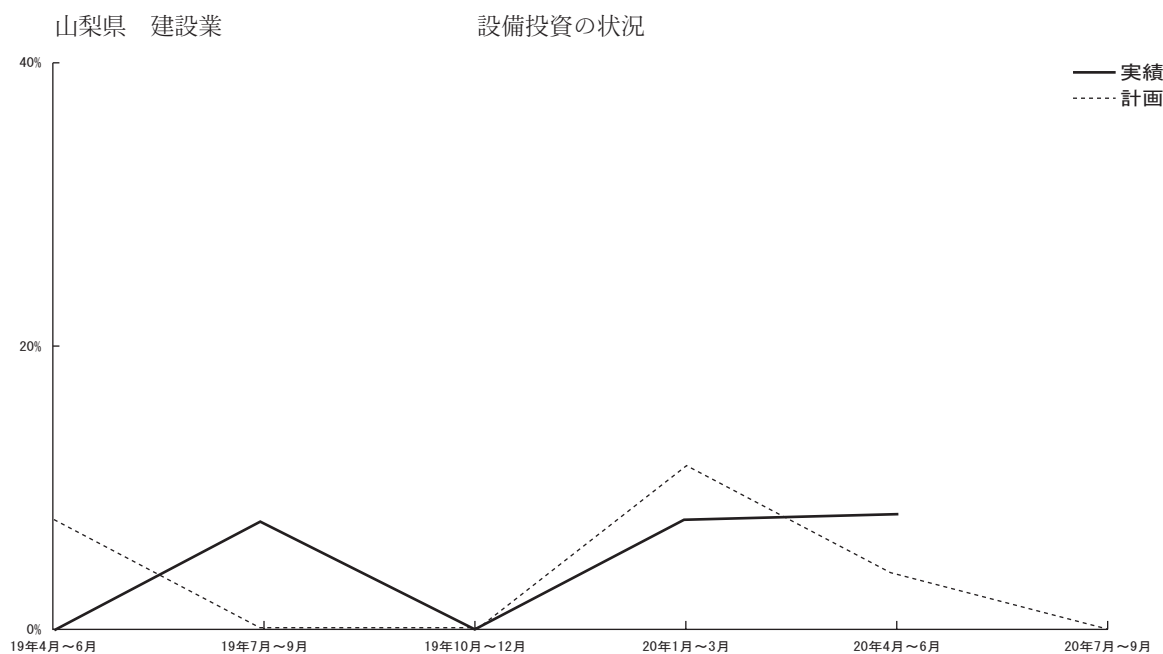
(2) 採算

採算状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス79.2の内訳は、「好転」が前期と変わらずゼロであり、「不変」が前期32.0%から11.2ポイント減り20.8%に、「悪化」は前期68.0%から11.2ポイント増え79.2%になった。来期の見通しについてのD I について、「好転」「不変」「悪化」の答えは今期と全く変わっていない。



(3) 設備投資

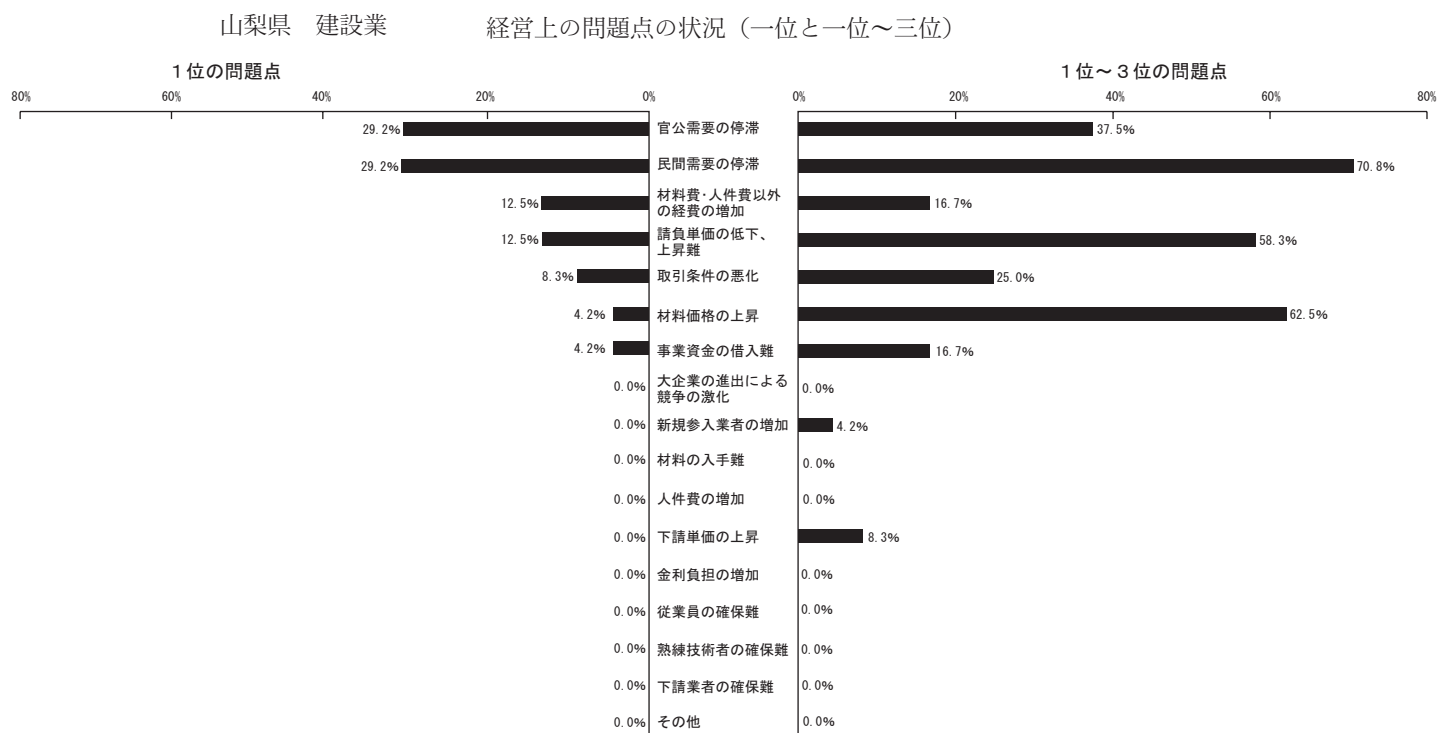
前期と同じく今期も2社が実施し、その内訳は「車両・運搬具」と「その他」が1件ずつであった。来期の計画はゼロである。市場の縮小が、設備投資を消極的にしていることが窺える。



(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多かった答えは「官公需要の停滞」と「民間需要の停滞」を各7社が挙げており29.2%、続いて「材料費・人件費以外の経費の増加」と「請負単価の低下、上昇難」が3社ずつで12.5%であった。

次に「一～三位」を見ると、最も多かった答えは「民間需要の停滞」で17社が挙げ70.8%、続いて「材料価格の上昇」が15社で62.5%、「請負単価の低下、上昇難」が14社の58.3%である。これらのほか目につくものは、「官公需要の停滞」で9社の37.5%であった。



(5) 回答企業の内訳

業種別

| 業種 | 企業数 | 構成比 (%) |
|-------|-----|---------|
| 総合工事業 | 17 | 70.9 |
| 職別工事業 | 5 | 20.8 |
| 設備工事業 | 2 | 8.3 |
| 合計 | 24 | 100.0 |

従業員規模別

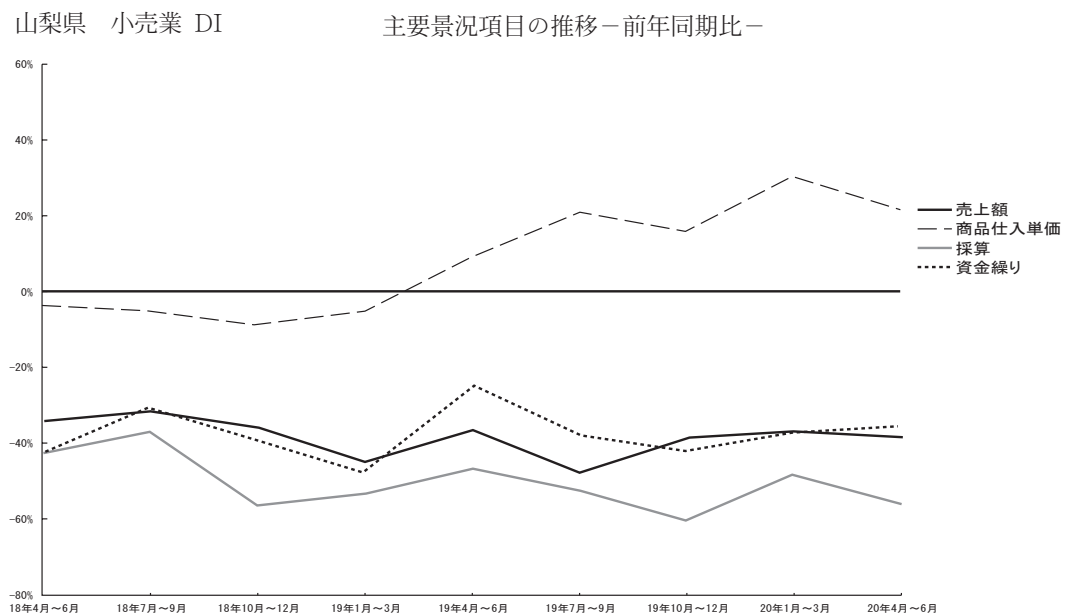
| 従業員数 | 雇用形態 | | 臨時等含む | |
|-----------|------|---------|-------|---------|
| | 常 | い | 企業数 | 構成比 (%) |
| | 企業数 | 構成比 (%) | 企業数 | 構成比 (%) |
| 2人以下 | 10 | 41.7 | 8 | 33.3 |
| 3人～5人以下 | 8 | 33.3 | 9 | 37.6 |
| 6人～10人以下 | 1 | 4.2 | 2 | 8.3 |
| 11人～20人以下 | 3 | 12.5 | 3 | 12.5 |
| 21人～50人以下 | 2 | 8.3 | 2 | 8.3 |
| 合計 | 24 | 100.0 | 24 | 100.0 |

4. 小売業の動向

1. 景況概観

「売上額」については、これまで見てきたとおりであるので、「商品仕入単価」「採算」「資金繰り」についての解説をしたい。商品仕入単価DIは前期に30.4と上昇したが、今期はやや落ち着きを取り戻し21.4となった。来期の見通しは、初月に多くの商品の値上がりが予定されているが、さらに今期より低下し17.8である。

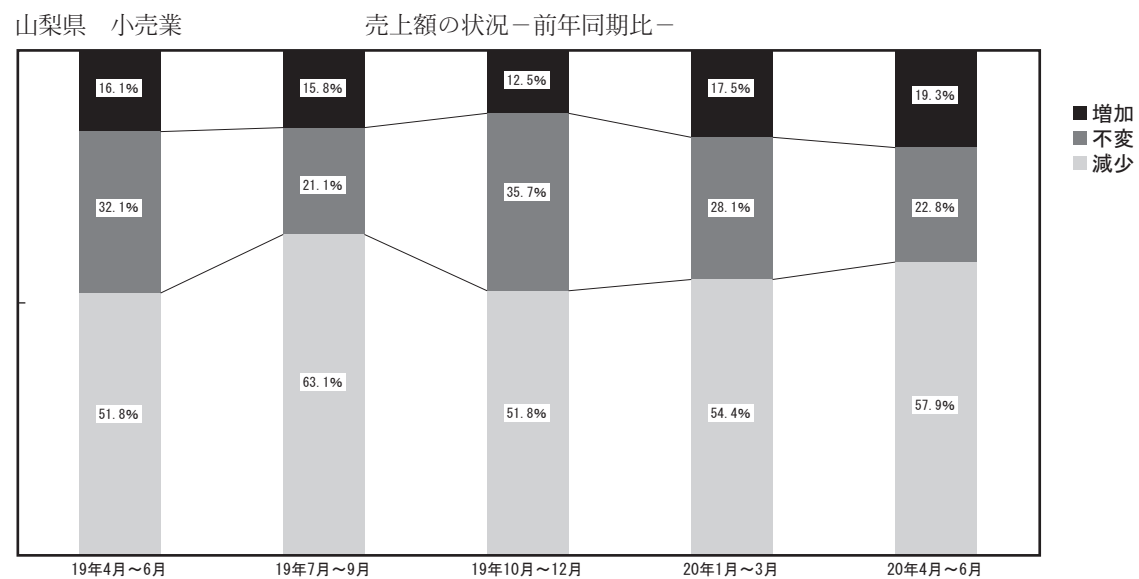
次に採算DIであるが、前期マイナス48.3から7.9ポイント悪化してマイナス56.2であった。来期の見通しについては、もう一段と下げマイナス61.4である。資金繰りDIは、前期とほぼ変わらずマイナス35.7であった。来期の見通しは、いくらか悪化してマイナス38.2である。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

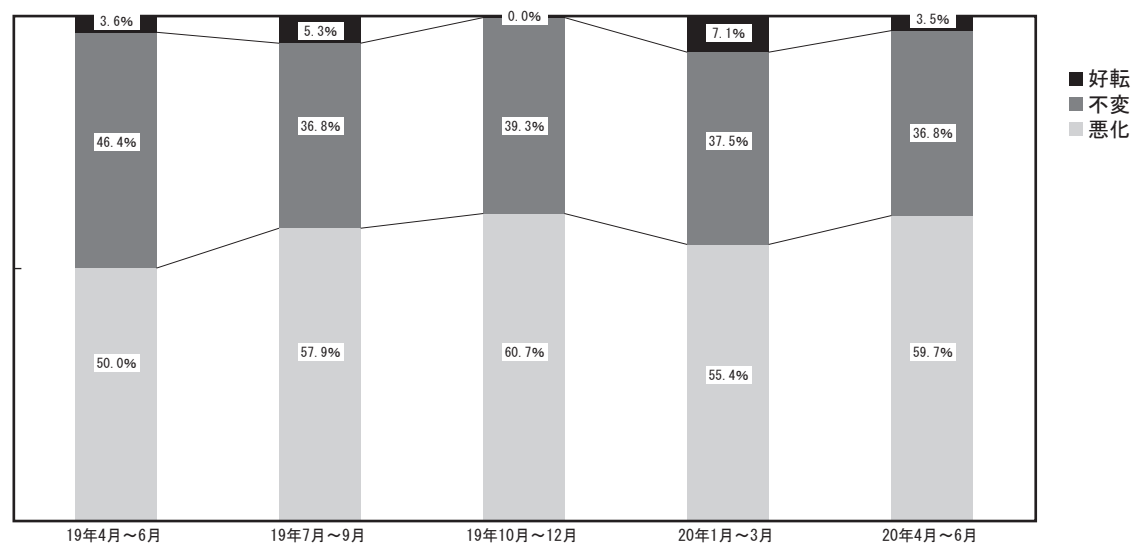
下図は、ここ1年間の売上額状況の推移を示したものであるが、今期の売上額DIマイナス38.6の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は前期17.5%から少し増えて19.3%になった。「不変」企業は、前期28.1%から22.8%へ5.3ポイント減った。「減少」企業は、前期54.4%から3.5ポイントの増加で57.9%である。



(2) 採算

下図は、この1年間の採算状況の推移を示したものである。今期の採算DIマイナス56.2の内訳をみると、「好転」は前期4社から2社に減り3.5%、「不変」は36.8%、「悪化」が前期の55.4%から59.7%に増えた。

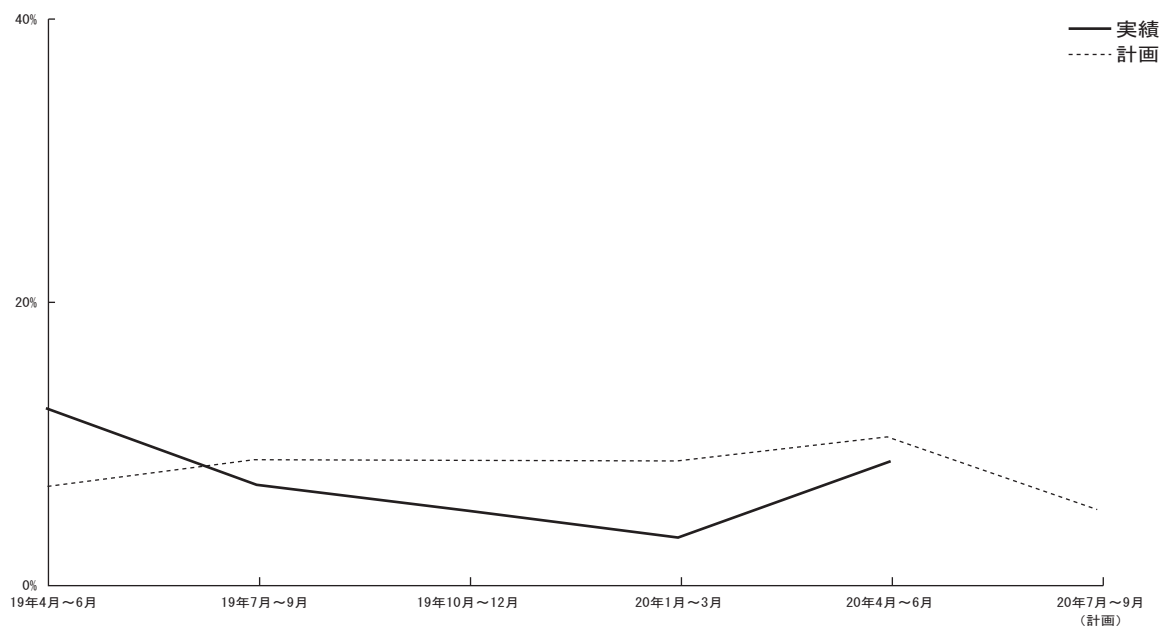
山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

小売業の今期における設備投資状況をみると、実施企業数は前期2社の3.5%から、5社に増え8.8%であった。その内容は「販売設備」と「OA機器」が2件ずつ、「店舗」「付帯施設」「その他」がそれぞれ1件である。来期に設備投資を計画している企業は、3社に減り5.3%である。「店舗」「販売設備」「OA機器」「その他」が各1件である。

山梨県 小売業 DI 設備投資の状況

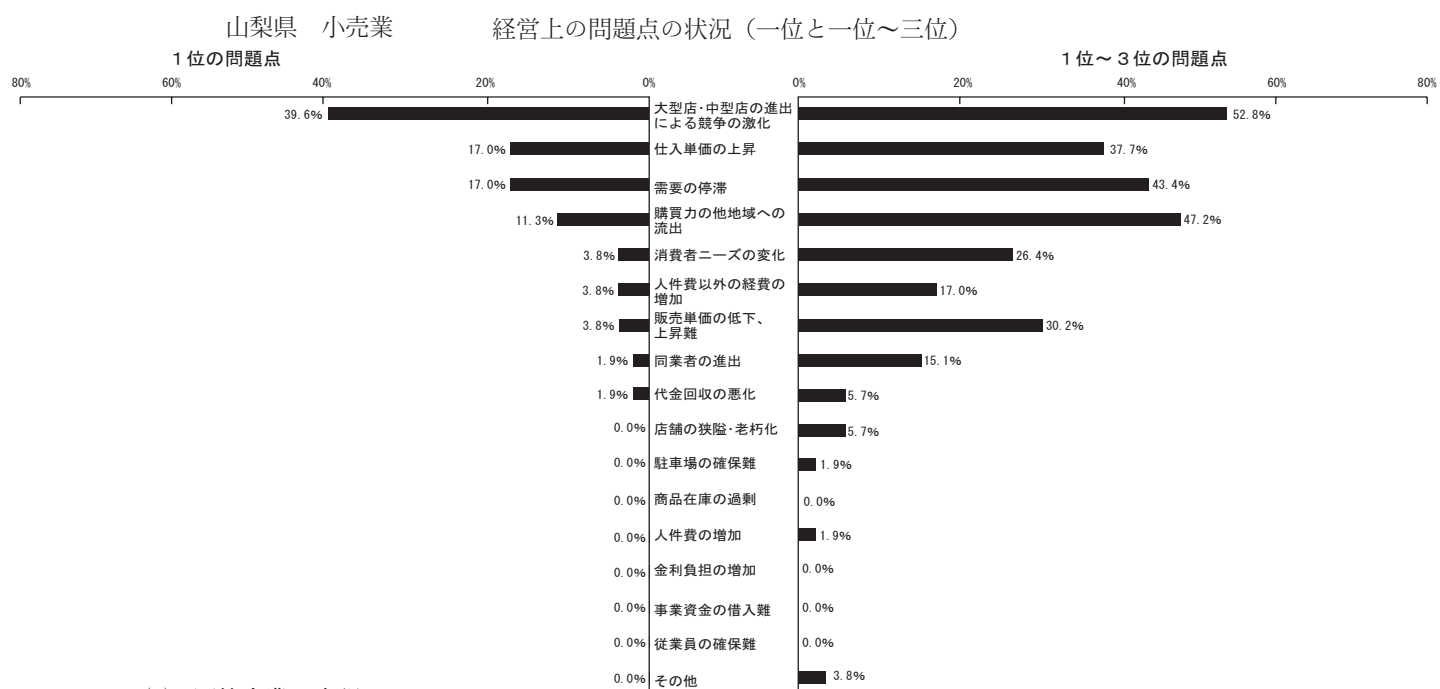


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げたものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」を前期と変わらず21社が挙げ39.6%、続いて「仕入単価の上昇」と「需要の停滞」がそれぞれ9社の17.0%、「購買力の他地域への流出」が6社の11.3%である。

次に「一～三位」に挙げた答えをみると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が28社の52.8%、「購買力の他地域への流出」が25社の47.2%、「需要の停滞」が23社の43.4%、「仕入単価の上昇」が20社の37.7%で目につくところである。

今期に大型ショッピングセンターが開店し、大型店の市場占有率はますます高まっている。「仕入単価の上昇」は、この1年間上昇の一途であり中小小売店にとって、大きな経営課題となってきた。この二つのことが、中小小売店の「需要の停滞」を押し上げているのが分かる。



(5) 回答企業の内訳

業種別

| 業種 | 企業数 | 構成比(%) |
|----------------|-----|--------|
| 織物・衣服・身の回り品小売業 | 10 | 17.5 |
| 飲料品小売業 | 16 | 28.1 |
| 自動車・自転車小売業 | 3 | 5.3 |
| 家具・建具・じゅう器小売業 | 8 | 14.0 |
| その他小売業 | 20 | 35.1 |
| 合計 | 57 | 100.0 |

売場面積別

| 売場面積 | 企業数 | 構成比(%) |
|--------------|-----|--------|
| 50㎡未満 | 27 | 47.4 |
| 50㎡～100㎡未満 | 21 | 36.7 |
| 100㎡～200㎡未満 | 3 | 5.3 |
| 200㎡～500㎡未満 | 3 | 5.3 |
| 500㎡～1000㎡未満 | 3 | 5.3 |
| 合計 | 57 | 100.0 |

従業員規模別

| 従業員数 | 常 雇 い | | 臨時等含む | |
|-----------|-------|--------|-------|--------|
| | 企業数 | 構成比(%) | 企業数 | 構成比(%) |
| 2人以下 | 43 | 75.4 | 39 | 68.4 |
| 3人～5人以下 | 11 | 19.3 | 13 | 22.7 |
| 6人～10人以下 | 3 | 5.3 | 3 | 5.3 |
| 11人～20人以下 | 0 | 0.0 | 1 | 1.8 |
| 21人以上 | 0 | 0.0 | 1 | 1.8 |
| 合計 | 57 | 100.0 | 57 | 100.0 |

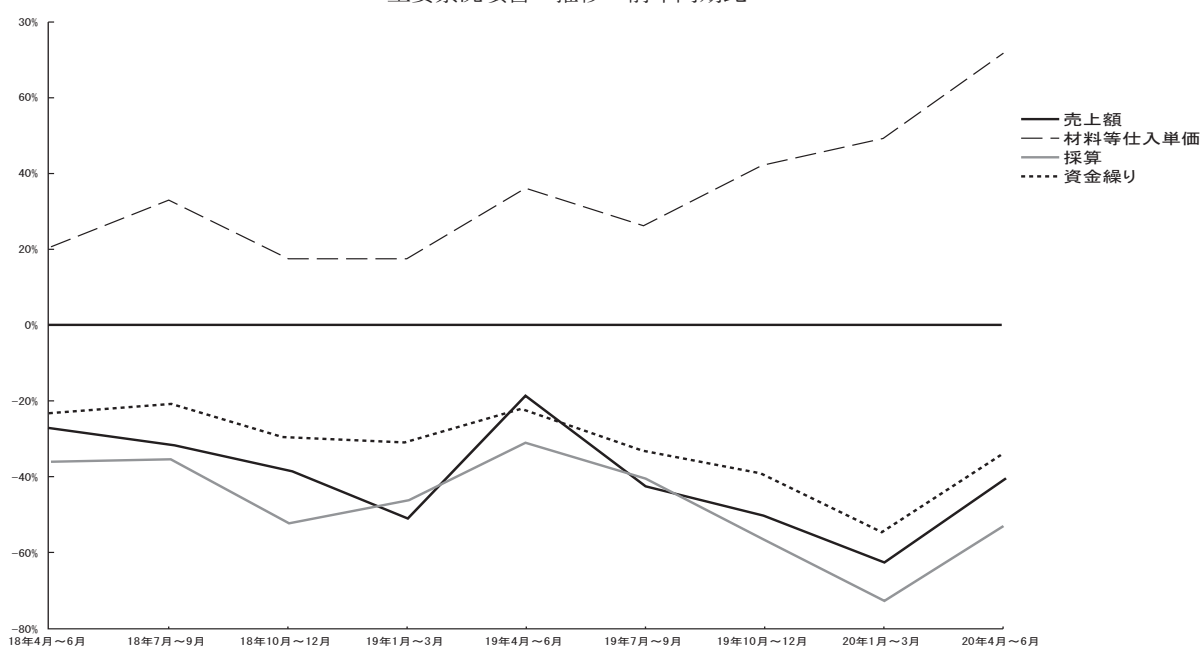
5. サービス業の動向

1. 景況概観

サービス業についても、売上額D Iは前記したので「材料等仕入単価」「採算」「資金繰り」についてふれてみたい。材料等仕入単価D Iであるが、前期48.7であったものが今期は大幅に上昇し71.4となった。来期の見通しは、ほぼ横ばいの69.0と高止まりの予測である。次に採算D Iであるが、前期はマイナス72.7と厳しい状況であったが、20ポイントほど改善しマイナス52.3となった。来期の見通しは、多少悲観的でマイナス56.9である。資金繰りD Iについても、前期マイナス54.5から採算D Iと同じく約20ポイント改善しマイナス33.3になった。来期の見通しは、こちらも若干暗くマイナス35.7である。サービス業については、仕入単価の上昇という懸念要因はあるが、経営状況は改善してきているといえる。しかし、消費者は多くの商品が値上がり傾向を見せている中、外食や旅行等不要不急の出費を控える兆しが表れており、消費者向けサービス業にとって予断を許さない状況である。

山梨県 サービス業 DI

主要景況項目の推移－前年同期比－



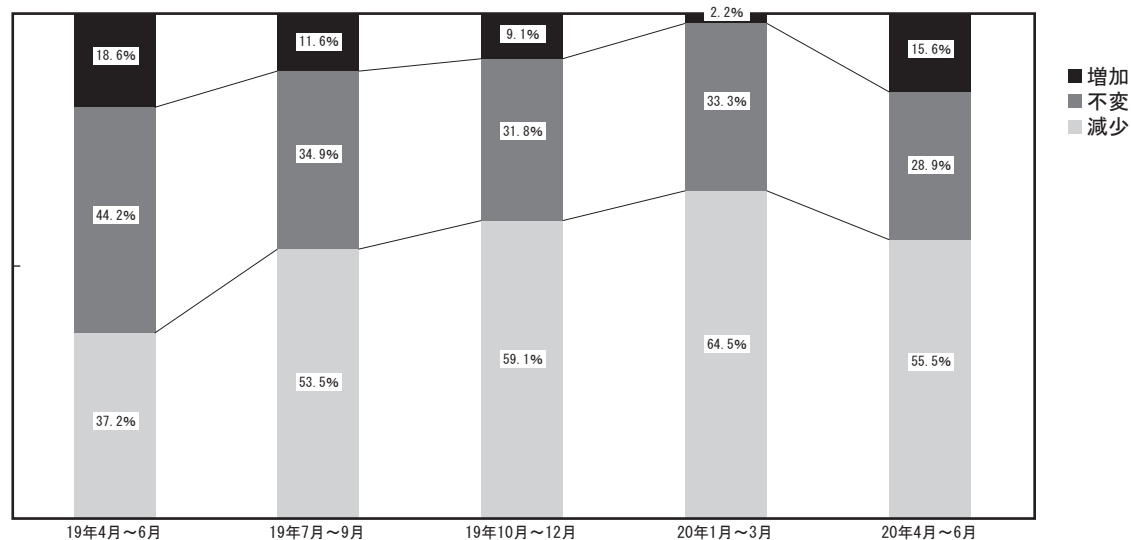
2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

この1年間の売上額の推移状況から、当期売上額D I マイナス39.9の分析を進めると、「増加」が前期1社から7社に増加し15.6%である。「不変」は15社の33.3%から2社減り28.9%であった。「減少」は29社の64.5%から25社に減少して55.5%となった。

山梨県 サービス業

売上額の状況－前年同期比－

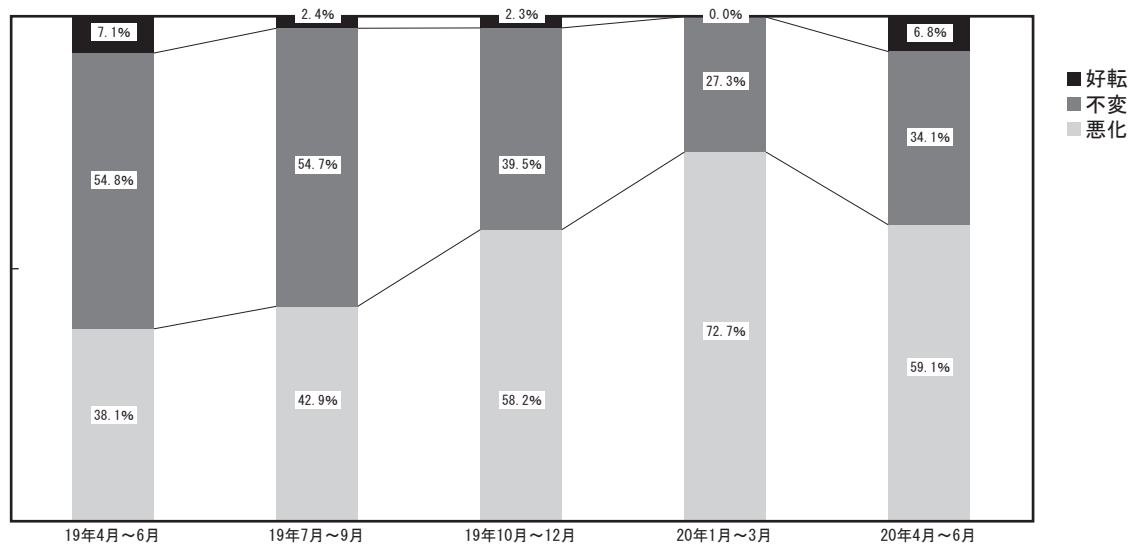


(2) 採算

今期の採算D I マイナス52.3の内訳は、「好転」が前期ゼロから3社になり6.8%、「不変」は前期12社の27.3%から3社増え34.1%、「減少」は前期32社の72.7%から26社の59.1%へと減少した。前期よりかなり改善し、前々期を若干上回るD I となった。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－

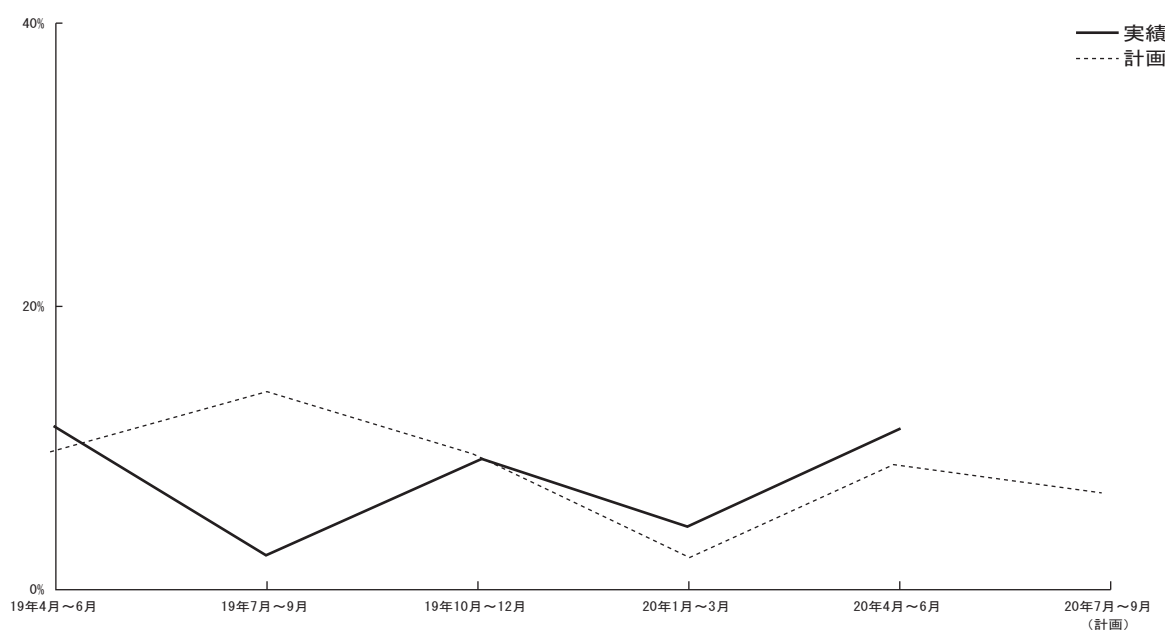


(3) 設備投資

サービス業で設備投資を行った企業は、前期2社から5社に増加した。その内容は「付帯施設」と「その他」が各2件、「サービス」と「車両・運搬具」が1件ずつであった。来期の計画については3社が予定している。「OA機器」が3件、「付帯施設」が1件である。

山梨県 サービス業

設備投資の状況

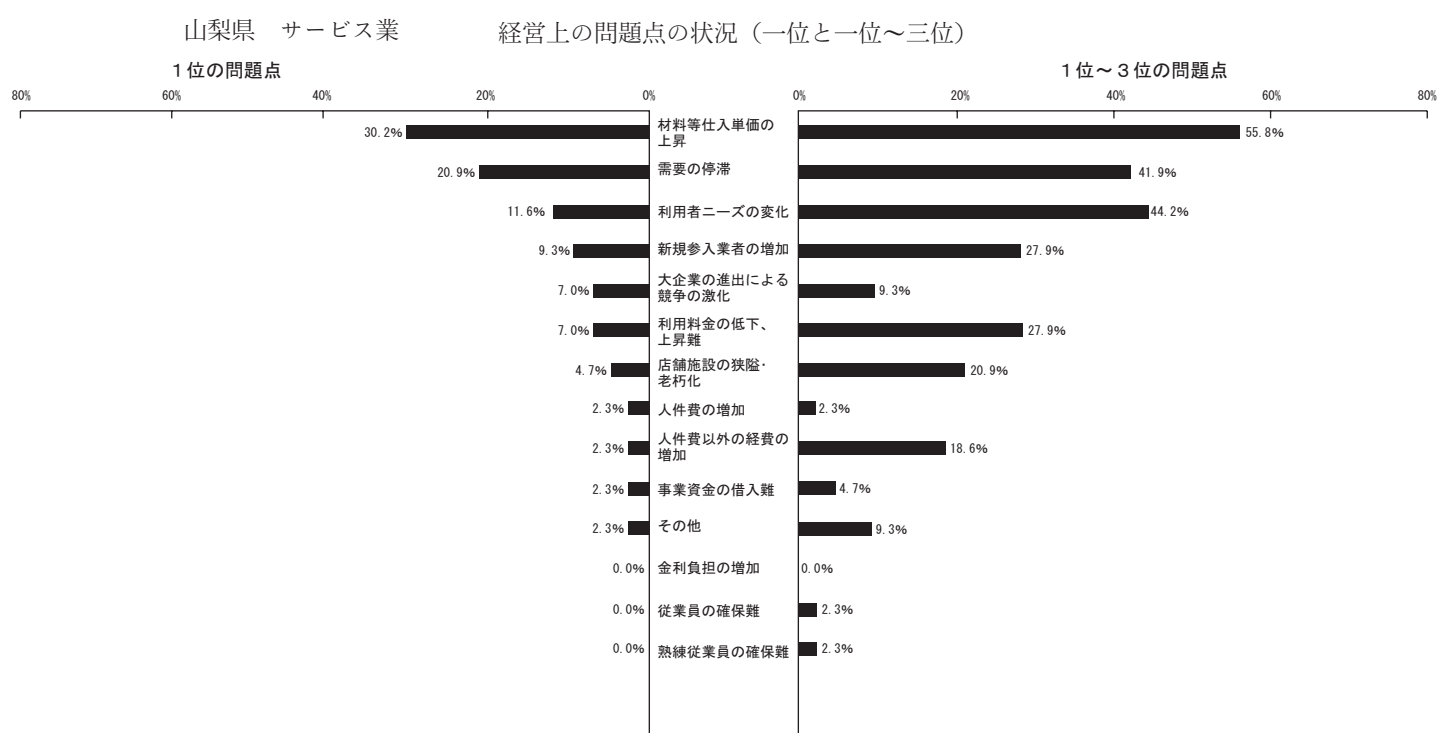


(4) 経営上の問題点

サービス業の経営上の問題点は、「一位」に挙げたものの中では「材料等仕入単価の上昇」が13社の30.2%で最も多く、続いて「需要の停滞」が9社の20.9%であった。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、ここでも「材料等仕入単価の上昇」が24社で半数を超え55.8%で最も多い。続いて「利用者ニーズの変化」が19社の44.2%、「需要の停滞」が41.9%となっている。さらに、「新規参入業者の増加」と「利用料金の低下、上昇難」が各12社の27.9%と続いている。

材料等仕入比率の高い飲食店や宿泊業が回答企業に多いことから、「一位」および「一位～三位」の最上位に「材料等仕入単価の上昇」が挙げられている。



(5) 回答企業の内訳

業種別

| 業種 | 企業数 | 構成比(%) |
|-----------|-----|--------|
| 一般飲食店 | 11 | 24.4 |
| 宿泊業 | 7 | 15.6 |
| 自動車整備業 | 2 | 4.4 |
| 洗濯業、理美容業 | 18 | 40.0 |
| その他のサービス業 | 7 | 15.6 |
| 合計 | 45 | 100.0 |

従業員規模別

| 従業員数 | 雇用形態 | | 臨時等含む | |
|-----------|------|--------|-------|--------|
| | 常 | 雇 | い | |
| | 企業数 | 構成比(%) | 企業数 | 構成比(%) |
| 2人以下 | 33 | 73.3 | 29 | 64.5 |
| 3人～5人以下 | 8 | 17.8 | 8 | 17.8 |
| 6人～10人以下 | 4 | 8.9 | 5 | 11.1 |
| 11人～20人以下 | 0 | 0.0 | 1 | 2.2 |
| 21人以上 | 0 | 0.0 | 2 | 4.4 |
| 合計 | 45 | 100.0 | 45 | 100.0 |